

2023 年度 第 7 回 多摩川親善野球大会 大会約款

(調布市、狛江市、多摩市、三鷹市、稲城市)

本大会は、2023 年度公式野球規則、2023 年度競技者必携の学童野球に関する事項および次に定める特別規則を適用する。

1. 試合イニング

新人クラスの試合は 6 回戦とするが、試合開始後 1 時間 30 分を経過したらそのイニングを最終回として、均等回の得点で勝敗を決める。ジュニア、教育のクラスは 5 回戦で 1 時間 10 分とする。

2. コールドゲーム

新人クラスは 4 回終了時以降 10 点以上の得点差、5 回終了時以降 7 点以上の得点差がついた場合は、コールドゲームとする。ジュニア、教育クラスは 3 回終了時以降 10 点以上の得点差、4 回終了時以降 7 点以上の得点差。

3. 特別継続試合

新人クラスは、試合開始より 1 時間 30 分以内で、4 回以前に中断になった場合および 4 回を過ぎて同点で試合が中断になった場合(正式試合でタイゲーム)は、再試合とせず翌日または後日継続試合として行う。また新人クラスは、4 回表が終了した時点で後攻チームの得点が多い場合は成立試合となり、後攻チームの勝ちとする。ジュニア、教育クラスは 1 時間 10 分、3 回とする。

4. 特別延長ルール(タイブレーク方式)

新人クラスは、6 回が完了もしくは試合開始から 1 時間 30 分が経過して同点の場合は、特別延長戦を行う。前イニングの最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁走者とし、無死 1・2 塁の状態で行う。特別延長戦は、最大 2 イニング行う。それでも勝敗が決定しないときは抽選で勝敗を決定する。ジュニア、教育クラスは 5 回、1 時間 10 分とする。

5. 投球制限

5 年生は、1 日 7 0 球以内とする。但し 7 0 球に達した時点の打者までは投球する事が出来る。4 年生以下は、6 0 球とする。

ボークにもかかわらず投球したものは、投球数とする。

投手の再登板は認める。但しタイブレーク時は再登板禁止とする。

6. ベンチ入り

ベンチに入場出来る大人は、代表者 1 名、監督 1 名、コーチ 2 名、スコアラー 1 名、給水係 2 名の最大 7 名とする。また代表、スコアラー、給水係は、ユニフォームを着用せず(コーチと区別出来るものを着用)、チーム帽子を着用する。

※監督・コーチの背番号は 30, 29, 28 を基本とするが、それ以外の背番号のものがベンチに入る場合は事前に大会主催者に申し出るものとする。

7. 用具など

試合中打者、走者、次打者、ベースコーチは、公認(JSBB)の両耳付のヘルメット、捕手は公認マスク(JSBB, SG マーク)、プロテクター、レガース、ヘルメット、ファールカップを着用しなければならない。

8. その他

- ① 各チームは試合開始の 60 分前までに集合し、30 分前までに各試合会場の本部にメンバー表(3 枚)を提出する。調布多摩川児童公園グラウンドの場合は、3 面本部に提出すること。
- ② ベンチおよびスタンドでは笛や太鼓などの鳴物の使用を禁止し、相手チームへのヤジや挑発的な行為はしない。同類の行為を続けた場合は、チーム責任として監督を退場とする。

- ③ ベンチは、抽選会で決定した組合せ番号の若いチームを一塁側とする。攻守は審判立ち合いのもと主将のジャンケンで決定する。
- ④ 試合前のシートロックは、実施しないものとする。
- ⑤ 投手の準備投球は、初回および救援投手は7球、再登板5球、イニングをまたいで継続して投球する場合は3球とする。
- ⑥ 本大会に参加する選手は、スポーツ安全保険に加入済みであること。
- ⑦ 大会約款に定めのない事項で協議が必要な場合は、大会本部と参加連盟で協議し、これを解決する。
- ⑧ 試合開始前のグラウンド作り(ライン引きやベースの設置など)は、面担当の支部が行う。
- ⑨ 試合終了時のグラウンド整備は勝利した当該チームが行う。
- ⑩ 試合前の練習場についてはありません。
- ⑪ メンバー表を大会本部に提出した後、新人クラスは、試合開始後60分経過後もしくは5回終了後、次の試合の先発のバッテリーのみ試合予定ベンチ側の外野にて投球練習可能とします。ジュニア、教育クラスは、コーチがキャッチャーを務めるのを可とする。投球練習中は、バッテリーの安全を確保するためにコーチを1名付けるものとします。ジュニア、教育クラスは、試合開始後40分経過後もしくは3回終了後です。
- ⑫ ヒット・バイ・ピッチについて
打者が頭部にヒット・バイ・ピッチを受けたとき、球審は攻撃側の監督と協議して臨時代走（直前の打順の選手でバッテリー以外）の処置をおこなう。
- ⑬ タイム回数について
 - (1) 【監督のタイム】 監督が1試合に投手のところへ行ける回数は3回以内（6イニングスの試合）、もしくは2回以内（5イニングスの試合）とする。タイブレークは1イニングに1回とする。監督が同一イニングに同一投手のところへ2回行くか行ったとみなされた（捕手または野手に指示を与えて直接投手の所に行かせた場合）場合は、投手は自動的に交代しなければならない。交代した投手が他の守備につくことは許される。
 - (2) 【守備側のタイム】 捕手または内野手が、1試合に投手の所に行ける回数は3回以内（6イニングスの試合）、もしくは2回以内（5イニングスの試合）とする。野手（捕手も含む）が投手の所へ行った場合、そこへ監督が行けば、双方1回として数える。逆の場合も同様とする。投手交代の場合は監督のみ回数には含まない。タイブレークは1イニングに1回とする。なお、攻撃側のタイム中に守備側は指示を与えることができるが、攻撃側のタイムより長引けば守備側の1回とカウントされる。
 - (3) 【攻撃側のタイム】 攻撃側のタイムは、1試合に3回以内（6イニングスの試合）、もしくは2回以内（5イニングスの試合）とする。タイブレークは1イニングに1回とする。なお、守備側のタイム中に攻撃側は指示を与えることができるが、守備側のタイムより長引けば攻撃側の1回とカウントされる。
 - (4) タイムは1分以内を限度とする。
- ⑭ コーチャーは選手が務める。ジュニア、教育クラスについては、一塁および三塁コーチャーにベンチ入りの監督もしくはコーチが入ることもできる。一塁および三塁コーチャーに入れるのは、それぞれ常に1名のみです。
- ⑮ 給水タイムについて
試合が攻守の交代がないまま延々と進行している場合や、天候の状況等により、審判員は選手の健康に配慮して、適時給水タイムを取ることができる。給水タイム中は時計（タイマー）を停めるものとする。
- ⑯ 審判へのお茶出しについて
今大会は各チームのお茶出しは行いません。審判の方は持参願います。
- ⑰ 当該試合の運営について

面担当：グラウンドの設営(ライン引きなど含む)および当該試合のスコア記入などを運営する

責任審判：2名以上

チーム塁審：塁審として割り当てられた当該チームから1名ずつ計2名

球数カウント担当：試合をする当該チームから1名ずつ計2名

⑱ 多摩川グラウンドにおける安全委員について

調布多摩川グラウンドについては、歩行者と多摩川河川への安全配慮観点から安全委員を試合する当該チームから2名出すようにお願いします。ただし、教育の部については、安全委員は不要です。

以上